

アクア琵琶から琵琶湖・淀川流域水だより

# ビワズ通信

2008 Spring



ビワズくんの妹“アクア”ちゃん 【ビワズ通信】は、琵琶湖・淀川の上流から下流の水のかけはし情報誌です。

季刊

No. 57

春号

<http://www.aquabiwa.jp/>



アクア琵琶のマスコット  
“ビワズ”くん

## 知・食・見・樂 川と湖を味方につけた 天下の水城、膳所城

写真家 前野隆資の原点、  
『びいあ』の風景

- ◎ ビワズトピックス
- ◎ 琵琶湖湖岸の生態系回復への取り組みについて
- ◎ アクア琵琶 INFORMATION
- ◎ コラム 琵琶湖講座リポート
- ◎ 親と子の琵琶湖
- ◎ たいけん教室

## 写真家——前野隆資の原点、 『びいあ』の風景

【わが心の風景、琵琶湖・淀川】



近江をこよなく愛し、日常の風景を撮り続けた前野隆資さん（1916年～1998年）は、生涯を通して約8万点の作品をのこしました。沖島の桟橋で鍋を洗う家族や乳母車をかたわらに瀬田川で洗濯をする女性など、暮らしの中のシーンを切り取りながらも、そこにはたくましく生きる人々への愛情があふれ、見る者に大きな感動を与えます。1985年に前野さんと出会った嘉田由紀子さん（現滋賀県知事）は、大学教授時代のホームページに『前野さんの写真の1枚1枚の撮影場所、撮影内容を伺いながら昭和30年代への思いをはせたひとときは、調査者冥利につきる時間だった』と記しています。

前野さんの代表作のひとつに、南郷洗堰から川に飛び込む少年の姿をとらえた写真があります。

喜久代夫人が当時を振り返り、次のように語ってくれました。「あの少年たちが、洗堰を『びいあ』と呼ぶのを聞いて、かつて技師たちが使った英語のピア（橋脚の意）が地元の人たちの間に広まつたのだろうと教えてくれました。人々の何気ない会話に耳を傾け、道端に咲く小さな草花にも目を留める、そんな視点が前野の作品の原点だと思います」。

前野さんによると、この写真は1957年（昭和32年）8月大津市南郷（瀬田川右岸）で撮影されたもの。前野さんは、この写真を撮影したときに、喜久代夫人にその名前を教えたといいます。



1957(昭和32)年8月大津市南郷(瀬田川右岸)  
撮影:前野隆資 提供:琵琶湖博物館  
表紙イラスト:アクア琵琶(瀬田川左岸)

写真家

**前野 隆資**(まえの・たかし)

1916年兵庫県明石市に生まれる。

1928年に滋賀県大津市に移り住む。

15歳の時に画家の父にすすめられ、写真を撮り始める。

以来、66年間に8万点以上の作品をのこす。

その作品はすべて琵琶湖博物館に収蔵され、

そのうちの近江の風景や暮らしどとらえた2万点については

CD化によって保存されている。

写真集に『琵琶湖・水物語 湖国の絆は時代(とき)をこえて』

『前野隆資写真集・レンズで綴る近江路60年』など、

関連著作多数あり。

◎前野さんの作品は、滋賀県立琵琶湖博物館のホームページ(<http://www.lbm.go.jp/emuseum/>)より  
資料データベース「写真で見る生活史」として閲覧することができます。

